

---

# 幻説秩父三十四箇所巡礼行記 第3章

山之口 博道

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幻説秩父三十四箇所巡礼行記 第3章

### 【Nコード】

N8451F

### 【作者名】

山之口 博道

### 【あらすじ】

札所6番、ト雲寺にまつわる幻想行です。

## 第二章 夢、仮の世の

その日、私は疲れ果てていた。

職場での謂われない、誹謗中傷。

もう人生自体に疲れていた。

自宅に帰り着くなり、激しい下痢と頭痛、早々に、床に就くしかなかった。

狂おしい懷古と不思議な、憧憬が限りなく襲ってきた。

やがて、夜霧の中に、道士が現れて、

「大分疲れているようだな、巡礼はどうした？」と。たずねてきた。

「巡礼？馬鹿いわないでくださいよ。食うために働かなくちゃならない身に出来るわけないでしょ」

「では、わしが案内しよう。ついてくるがいい。」

そういうと私は、いつか知らず、ひなびた田舎道にぽつんと立っていた。

目の先には同じくひなびた草堂が、「向陽山ト雲寺」と寺号が読めた。

「お前は前世、ここの、修道僧じゃったのじゃよ。」

ふーっと、意識がなくなり、夜となっていた。

私は僧形に身をやつし、ひたすら工夫を凝らして、悟りを求めているのだった。

すると、どこからともなく、澄んだ声で

和歌を朗唱する声が切れ切れに漂ってくるのだった。

必死に耳を凝らすと、それはこんな歌だった。

「初秋に、風吹き結ぶ荻の堂、

宿、飯の世の夢ぞ、覚めける」

私ははつとして、思わず悟るところがあつた。

座禅を中止すると、その声を求めて、暗闇の中を走り出していた。

竹林を抜けて、暫く行くと、

大きなもみじの木があり、その根元からその声が、途切れ途切れに、  
、、、

「初秋に、風吹き結ぶ荻の堂、

宿、飯の世の夢ぞ、覚めける」

私は憑かれたようにその根元を掘り始めた。

するとでてきたのは、一つの髑髏だった。

それはカタカタと悲しそうに、

その歌をつぶやいているのだった。

私は、不思議と恐れもなく涙が滂沱と湧き出してくるのを抑えることが出来なかった。

再び埋め戻し、寺へと帰ると、

早速その歌を短冊に書き記して、

仏前に供えたのだった。

すると突然、私は、自宅の前に立っているのだった。

「どうじゃ、何か悟ることは、あつたかな。」

道士が目の前にいた。

「無常迅速、飯の世は、飯の世ながらさりながら、、、、そういう

「ことではないのかな」  
道士はそついうとふつと私の目の前から消えていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8451f/>

---

幻説秩父三十四箇所巡礼行記 第3章

2010年10月14日21時01分発行